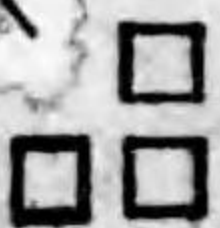


特 100

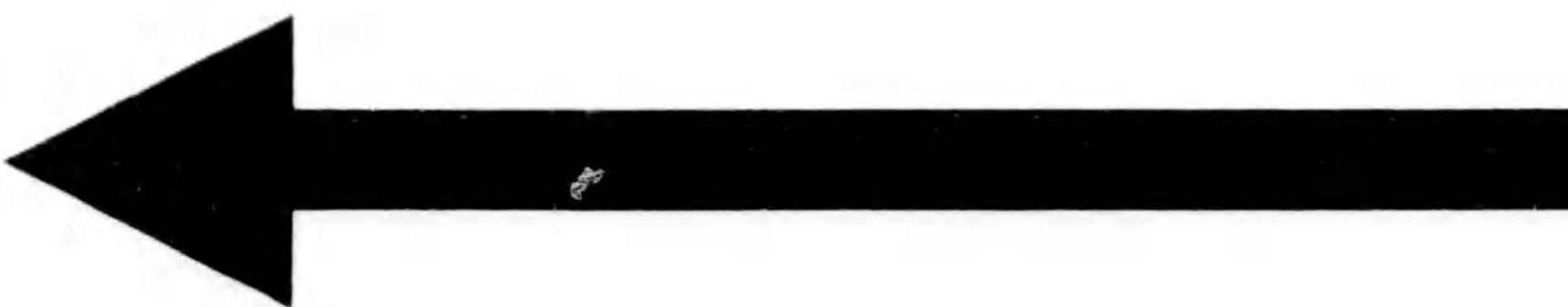
939

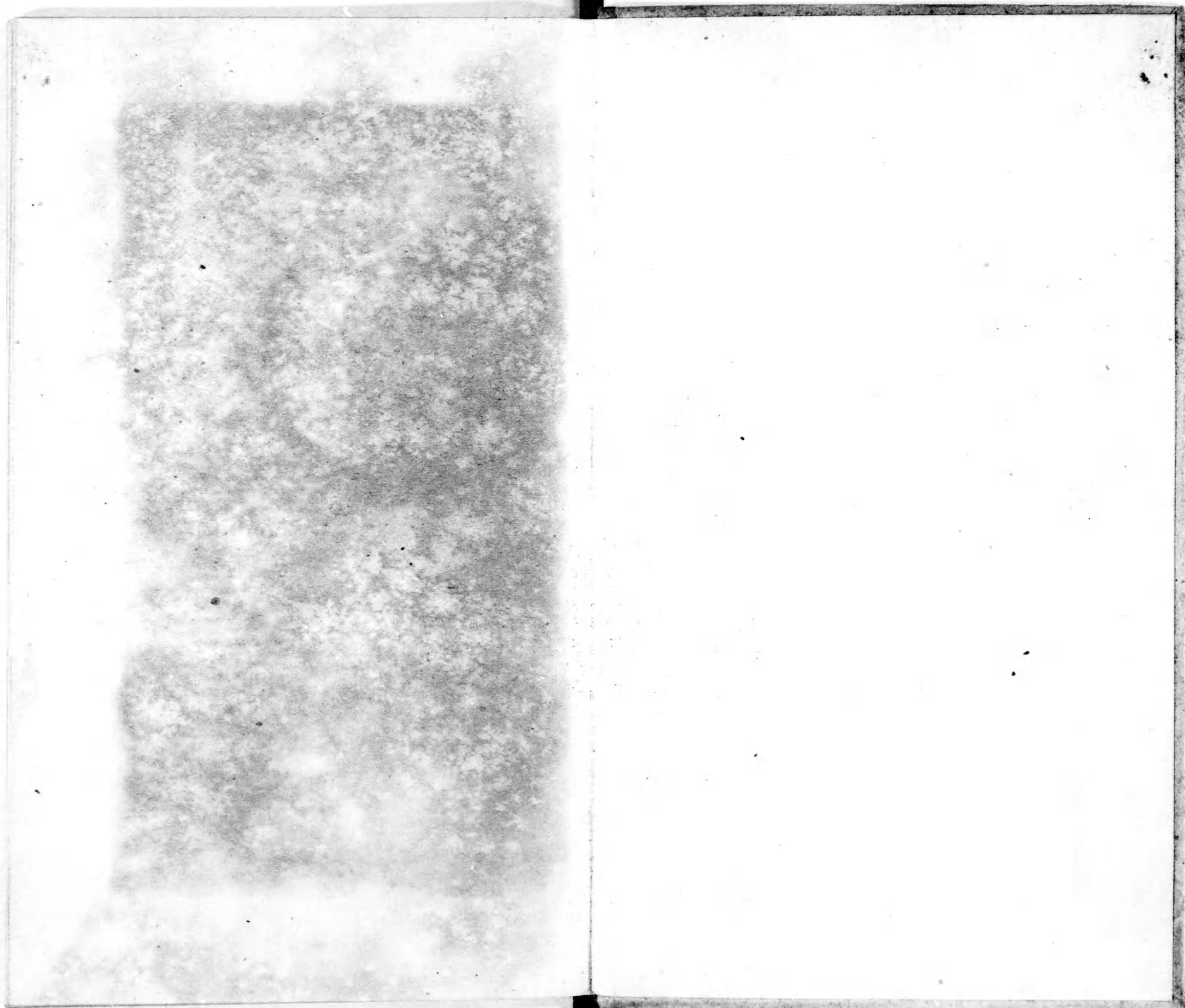
ドコマデ變ツテ行クデセウ

加納



始





特100

939



どこ迄變つて行くでせう

紐育の郊外イングリウッドに

加納久朗著



大正  
10 7. 14  
内交

目次

第一節	はしがき	一頁
第二節	不安の今日	五
第三節	生命と健康	九
第四節	教育	一九
第五節	家庭	二七
第六節	政治と経済	三四
第七節	國家の施設	五四

第八節	宗教と國家	.....	七六
第九節	改造に對する反對論と障害	.....	八二
第十節	國際關係	.....	九七
第十一節	むすび	.....	一〇一

みくにをにはかにきたらせ給へ

## 第一節 ハシガキ

私は郷里の人々が數年郷里の町長をつとめた父の爲めに記念碑を建て、下さつたと云ふことを此地で聞きました時に御禮の印として一小冊子を書いて捧げ度いと存じました、處がゴタ／＼忙はしく日を送つて未だ書き始めませぬ内に父が此世を去りました。私が海外に勤めて居ります爲めに父の最後の大事に何にも世話が出來なかつた、そして日本に在る親類の人々も友達の方々に大變心配をかけ

其上一切の御世話になりました。そこで御禮をなすべき借りがまた一つ増えました、其御禮としては矢張り自分の考へを自分で書いて此世に捧げると云ふことが一番よき方法であり、且父に對してはよき手向たむけであると考へました。

そうは思ひましたものゝ今日の資本組織の下に一の被傭人であるものにとりまして日々の仕事を終へて家に歸れば全身綿の如くに疲れ筆を取るの勇氣を出すことは容易なことではありませぬ、然し自分の同勤の多くの人々が遠く妻子を故郷に残こし人間の住家とも思

はれの紐育の下宿に孤獨を味ひつゝあるのに比べますれば、私がか族と共に此地の人々に慰められ愛せられて楽しき生活を送りつゝあることは誠に勿體ない氣が致しますので、自ら自分の心に鞭つて筆をとり始めました、時は父の一年祭迄に一月半を餘すのみでありました。

\*

\*

\*

\*

\*

私は日本を出立して既に五年餘りになります、近頃日本の新聞や雑誌を見、また日本から最近此地に來られる人々に會つて話しを致

しますと日本は私の思想などは一寸追ひ付かぬ程の進歩を爲しつゝ、ある様に思はれます、誠に結構なことと思ひます、私の此小冊子が日本で時代後れとされ、「こんなことはモト解<sup>わか</sup>りきつて居る」と云はれる様であれば私の幸ひは申す迄もありません、故國の同胞の爲めに如何ばかり幸福であるか知れませぬ。

## 第二節 不安の今日

人間には色々な心配事や、心にかゝることがあります、これなき人は一寸ありますまい、ある人は病身である爲めに苦勞致します或る人は年をとつて、からだ不如意で難儀致します、そうかと思ふとある人は身體は健康だが學問が不充分だと云ふてこぼします、又た或る人は家庭が面白くないと云ふので惱まされます、それから又た或る人は働いても働いても貧乏神にとつつかれてとても浮ぶ瀬が



ない。とてブツ／＼云ひます、又た或る人は身體は壯健で學問はある食ふにも困らないので他目には羨まれて居る身分なのにこれも聞いて見れば面白い様な話ばかりはしない、して見れば今の人間には何か不平が付いて居るらしい、けれども、人間には不平や不満があるので努力も發達も起るのであります、何時の時代だからとてこれ無き時代はないのでありませうが、私共御互が生れ合せた今日と云ふ今日こそは其不平が原因を同じ處に發して居るのではなからうか何故かなれば五六年前迄は大に有難たがつた筈の事が今日は一寸

も有難くなくなつた上に不平が云ひ度くなると云ふ有様、又た今迄テンド氣が付かなかつたことが御互が一樣に問題として泡を飛ばして論じ合ふと云ふ様になりました。云ひ換へ見れば今日は社會的に大不安がある、政治上にも大なる不安がある、經濟上にも大なる不安があるので、扱此不安は世界が一定の年齢に達して來るべき當然の不安であるのです、人間なら青年期に一と度は必らず起るべき一種の不安、煩悶、懷疑の時期がありませう、今世界は其不安不定の時代にあるのであります、それで何れ人間がよつてたかつて此

不安を取り去ろうと努めるに相違ない、取り去つて後に今の世界は  
どんなになるであろうかと云ふことが私が書かんと試みることであ  
ります、私はこれからの世界がかくなるであろうと云ふことを申し  
上げるのでかく爲さねばならぬと云ふことを申し上げるのではあり  
ませぬ。

### 第三節 生命と健康

第一に命あつての物種であるから人間は身體が病氣の苦みや老衰  
の不自由から如何にして脱するであろうかと云ふことを考へずには  
居られませぬ、又た出來得る限り天然の壽命は保ち度い、若死<sup>わかじに</sup>など  
は誰れだつて賛成しませぬ。

そこで第一に丈夫な子として生れて來ることが人間として望まし  
いでせう、丈夫な子として生れて來るのには兩親が丈夫であること

が最大條件であります、それで親が身體上精神上の健康に注意して  
其の條件の最もよく備はつた時に子を生むと云ふことにしなければ  
ならない、一體子は親に頼んで生んで貰つたのではない、子は丈夫  
な身體に生んでくれなかつた場合に親に對して抗議を申込む權利は  
ありますが、親は子に對して何事をも要求する權利はない筈です、親  
が不道德な病氣を有つて居つた爲めに子が弱いと云ふ様なことはほ  
んとうに子に對して申譯がありません、又た親が性慾を満足させん  
が爲めに其身體のことも考へず<sup>どしどし</sup>に年子を<sup>どしどし</sup>生んで子も弱るし、親も充

分な世話が出來ぬのみか、母親自身の體力を損し、父親は其収入で  
は充分な營養を一家全體に與へられない様な結果を來すと云ふ様な  
ことは慎まねばならぬと思ひます、言ひ換へれば親の生理上、精神  
上、及經濟上から割り出して健全にそして充分に世話の出來る程度  
に生んで行かない子供こそよい迷惑である、今日では右申上げた様  
な親の思慮の足らぬ爲めに子供の死亡が非常に多いのですが、これ  
が、非人道的であることは明らかであるから、夫婦である人  
は性慾を満足しつゝ適當に生産を制限すると云ふことになるであり

ませう、此處に御斷りをして置きますことは生産を制限すると云ふのは避妊の方法を用ひると云ふことで墮胎をすることではありませぬ。

第二に白痴や狂者は去勢して其子孫の増殖を無くすると云ふことになるでませう、白痴や狂者の爲めに國民の負擔する損害と云ふものは非常な多額であります其他無形的の損失、例へて見ますれば此系統のあることを知らないで結婚し自分の子に狂者が出来たと云ふ様なことが御座ります、此種の人間を去勢することは一寸氣の

毒に感ぜられますが政治の目的は最大多數の幸福増進と云ふことにあります以上は止むを得ませぬ。

第三に保健事業としまして今日の不自然教育を改良しなければなりません、これは教育の論には入りませんが、人間と云ふ生き物を規則的に取扱ふこと、一律に一定の時間に一定の場所に入れて注入すると云ふ様な教育を授けては健康を害することは當り前です、青年の身體の發達する時期に戶外運動の暇も充分にない様に試験でいぢめると云ふことも、男女混合教育をしない爲めに異性に對する理解

と尊敬に乏しく、爲めに男子が女を女郎の如くに見、女は男を猛獸の様に見ると云ふ様なことは人道上の大なる缺陷でありましてこれが原因となりまして健康迄も害すると云ふ結果になります。

第四に結婚の自由と共に産兒を適當に制限して行くこと言ひ換へれば若い男女の間に思ひかはした結果結婚をする、しかしすぐ子供が出来ては夫婦共稼ぎは出来ない、或は共稼ぎをしない場合でも夫の収入が夫婦兩人だけしか維持することが出来ぬと云ふやうな場合には戀ひ慕つた男女の間に結婚を成立せしめて産兒制限をすれば

よい、そうすれば適當に性慾を満足して行けるから淫賣、遊廓は不必要となります、一夫一妻の風儀を嚴守し、風紀を正ふするにはどうしても産兒を適當に制限して行くと云ふ方針に出づるが最もよき方法であります、かくして花柳病に感染すると云ふ機會は減少致します、夫婦の家計が豊かになり、健康の状態のよき時に子を設けると云ふことにすれば夫婦にも幸福、子も幸福であります、かくして身體上の自由を受くるであります。

第五に人間は充分な収入があつて、衣服や住居が清潔で、食<sup>た</sup>べ物

に營養がなくては健康を保ち難いのは勿論のことであり、これは富の分配さへよくなれば自らは行はれることで後に述べます。

第六に醫者は今日の様に自由職業にして置かなくなるでせう、醫者は市町村有又は國有として國費で養つて置くことにならざるでせう、何となれば今日では金持は風を引いた時でも、食ひ過ぎで腹が少し痛いと言ふても一回何十圓何百圓の診察料を出して名醫に診て貰へますが貧乏人は死に瀕した場合でもヤブ醫者すら来てくれぬと言ふことは人道上何時迄も續くわけがありません、で、追つては

病人のある家から電話か使で町役場にそう傳へる、そうすると當番の町有醫者がすぐやつて来て診察し其病狀を醫者を以て組織する衛生局に報告する、翌日は其専門醫が行つて診察すると云ふことにし一切個人から金を貰はぬと云ふ方針にする、かくして助かるべき病氣でも死んでしまつたと云ふ場合を減らすことが出来ませう。

第七、老人は一定の年齢以上は一切國費で食べさせると云ふことにする、六十五歳とか七十歳とか其時其處で異なりませうが兎に角或る年齢迄此世に生きて居つて働いた人達は社會が敬意を表して物

質的の心配がなく世を終へ得らるゝ様にするのが當り前のことでありますから、これは今日既に英國が實施して居る養老年金制精神が各國の採用する處となつて一層進歩したものとなる時代が來るに違ひなし。

#### 第四節 教育

次に學問の自由と云ふことが行はれるでせう、子供は如何なる子供でも皆個人個人の特長を有つて生れ出て來たのです、故に個性を大きくすると云ふ方法の教育を行ひそして教育を受け得らるゝ機會を平等に與ふるならば社會の進歩と云ふものは誠に著しいことであると思ひます、然るに今日の有様はどうかと申しますに親が貧乏人であるといふことは普通教育がヤットのことである、親が金持ちなら

いくら低能でも高い學校には入れて其上外國に留學をすることすら出来る、かゝる不合理不經濟な話がありませうか、そこで將來はこゝう變化して行くのでありませう。中學校程度迄は國費で強制教育を行ひ衣食の費用一切を國費で支辨する、中學校も其教育の方針は常識教育と個性を發達せしむる教育に力を注ぐことゝ致します、教育の程度を高くすると云ふことは一國の政治、道德、經濟方面に頗る大切なことでありませうから人間は出来る限り高い教育を受くることになりませう、強制教育以上の教育と雖も希望者は國費を以て衣食住

及教育費を支辨することになるのです、そうすれば教育の機會均等主義で苟くも人間と生れて能力と意思さへあれば最高の學問が受けられることゝなるに相違ない、又た強制教育を受けてから何年か経つて、モ一一度大學教育を受けて見たいと云ふ様な者は年齢の如何を問はず國家が衣食住の費用と學費を出すと云ふことになる、かくして有用な研究や發明が出ずに居ませうか、それから又た極端な人で一生學問をし度いと云ふ人、これも國費で一切を支辨することにするから今日想像にも及ばぬ程な大發見大著述が出て世を利益する



でありませう。

それから學問を平民化する言ひ換へれば學問の普及を計るのには其道具である文字をやさしくしなければならぬ、今日では程度の高い學問と云へば其事柄が六づかしいので普通一般の人に解からぬいのではないつて學者の使ふ文字や言葉が六づかしいので解り難いのです、これは不都合な話してありますから必らず文字はローマ字又はもつと進歩した重寶な文字を發明して、使用する様になるでせう、不幸にして支那や日本は象形文字の漢字を使用致しまする爲め

にローマ字國と比較して大なるハンデキャップ（競走をする時何尺か後ろに立たさるゝことを申します）を受けて居ります、文字は學問をする道具に過ぎないのでからこれが爲めに三千字を覚え毛筆で習字の稽古をすると云ふ様な滑稽極まる技術を學校で教へなくてはならないと云ふ様なことは丁度自動車や汽車で一時間數十哩數百哩と云ふ速力で旅行の出来る今日にワザ／＼駕籠に乗つて旅をする様なものであります、人には悪い、ケチな根性があつて自分が苦心して學んで來たものを捨て度くないものです、しかし今日以後の人間が

自分が漢字で苦しめられたこととローマ字國の子供が小學の二、三年でサツサと歴史、地理何んでも本を讀破して常識が進んで行くことを比較して見まするならばこれではいかぬ是非取り敢へずローマ字を採用しようと言ふことになるに違ひありません、ペルシャと云ふ國は今日迄に言葉を三遍變へて居ります、しかし、かゝる難事業さへやり了へたのに比べますれば、文字だけを變へるのは朝飯前の仕事でありませう。

私が何時も可笑しく思ふのは學者がデモクラシイを唱へながら

御自身は至つて貴族的な漢語まじりで物を言はれることでありなす、一體政府者が出来るだけ六づかしい言葉で布令ふれいを出すのは民をして知らしむべからずと云ふ専制主義の遺物であります。

それから近き將來に於て今日の各種上下の言葉のあるのを笑ふ様な時代が来るでありませう、前に申上げた様に言葉は道具であります道具はなるべく便利で誰れでも使ひ易いそして聞きよいものがよいに相違ない、そうすれば言葉に「コウ遊ばせ」「こうなさい」「こらあし」或は「召し上げれ」「おあがりなさい」「おたべ」「くへよ」

等と云ふ様な多様な種類のあることは精力智識の浪費でありまして  
そんなつまらぬことに頭を使つて居る内に時世に遅れて了ひます。

## 第五節 家庭

第三に家庭の自由と云ふことを御話します、家庭を楽しくする第一の要件は結婚の精神的自由と云ふことであります、男女の自由なる戀愛と云ふことを基礎と致します、唯國家として規定すべきことは其時代に應じて結婚年齢を定むること、市町村の衛生局に於て體格の検査を行ひ生理的に又は病的に結婚に不適當であると認められた時は許さぬことであります、健全な國家社會を成して行く上に此種

の自由を束縛することのあるのは當然なことであります、又た衛生局の検査の結果結婚はしてもよいが衛生上注意すべき事項のある場合には充分衛生方法に關する注意を與へたる上に結婚を許すこととする。

•  
そうなれば青年男女は自己の健康に就き充分注意をする様になります、自己の戀愛の成立の爲めに體力の養成に努める様になります。

こゝに一言誤解のない様に願ひ度いのは、個人主義を完成せんが爲めに社會主義を實行すると云ふことであります、個人の自由を尊重すると云ふ上からのみ云へば無垢<sup>むく</sup>の處女と第三期の梅毒患者である男との間の戀愛を結婚として成就せしむることを妨げることは不都合であります、然しながら社會の福利の上から見て此結婚の成立は明らかに一人の處女を害し、そして妊娠と云ふ事實となつて幾人もの白痴を作るかも知れませぬ、これは社會主義の上から見て不都合であります、かゝる場合に私は後者をとるのであります、此結婚は許さぬこととする、結婚が許されぬと云ふことは戀愛を許さぬと

云ふことではないのです、戀愛は許すの許さぬのと云ふ問題ではありませぬ、全然自由です、けれども結婚と云ふ社會上の一契約を認めないのであります。

それから結婚が自由なると同時に離婚も絶対に自由になります、即ち家庭は愛の結合でありますから愛が消滅した時には家庭を作つて居る必要はありません、今日の人の頭から考へると、「さ、そうなのた日には結婚が多くて仕方なからう今は無理にも夫婦は離れるものでないとしてあるから家庭が保てるのに、そんなことになつた

ら、動物同様今日夫婦になり、あすは離婚と云ふ様になるだろう」と、所が事實は反對になつて現はれます、それは今日の様な愛のない結婚がなくなるのです、相愛する男女の間のみ結婚が成立するのです、強ひられた結婚がなくなるのです、それから今日の夫婦喧嘩の原因の大多數は生活難から來るのです、物價騰貴から來たり、子供が多過ぎる處から來たり、男の花柳病から來たり、妻君が弱くなつた爲めから來るのです、處が將來は前に述べた通り教育程度がうんと上ります、結婚には嚴重な體力検査をやり、國費の醫者

が何時でも来て診断してくれます、それに後に述べる様に經濟組織が變つて一般に生活の保障を得られます、これ等の條件が備はつた社會で自由の戀愛の下に結婚して離婚する場合が来るならそれはよく／＼の例外の場合でありますから御心配は御無用であります。

それから子供は今日迄とはすつかり位置を變へます、これからは親は子供を尊敬し、親は良友として子供に出來得る限りの精神的の自由を與へる様になります、それはその筈です、先きにも御話した様に子供は親に頼んで生んでは貰ひませぬ、これを、いたはりこ

れを助け、これを尊敬して一人前の人格に導き上げることは親の子に對するの責任、そして親の社會に對する責任であります、一體子供は生れた時から親が保護養育すべき地位に置かれたので親の私有物が増えたのではありませぬ、然るに多くの親は社會の一員が自己の家庭に出來たとは思はないで自分のものが一人出來た様に思ひます、この誤つた考へから漸次脱け出すと即ち親の貧富に關せず教育及生活の自由が一個の人格者たる子に存在して居ることを認める時代が來るのです。

## 第六節 政治と經濟

只今迄に私は身體の自由、教育の自由、それから家庭の自由と云ふことを説明致しました、然しこれ等の自由は國家があつてこれを保護しないでは完全に保たれませぬ、又た經濟組織がこれ等の自由を享けらるゝ仕組にならないでは充分な自由は得られませぬ。

そこで私は如何なる政治組織及經濟組織に變つて行つてほんとうの人間として自由を樂み得られるであろうか、此世に生れ甲斐があ

つたと感ずる程幸福になるであろうかと云ふ豫想を申述べて見度いと存じます。

私の考へでは必ず政治及經濟上の自治を要求しこれを實現しなければ止まないと思ふ、今日は普通選舉制にしなければならぬと云ふことが問題になつて居ます、これは國民の努力できつとそうなることは明白である、一體國家は人民の國家であります、政治の目的は人民最多數の幸福を計ると云ふことにあります、それなら人民が自分の國の政治は普通選舉でやつて行くと云ふ希望であつたら

そうなる迄のことです、反対したからとて妨害したからとて無駄なことです、もし普通選挙になつた揚げ句、政治が面白く行かないで國が亡びたならそれは人民に政治の能力がなかつたのだから、そうなつた迄です、人民全體に責任がある迄です、かくして世界の民族は皆今日デモクラシーを主張し、これを得まして民族それ自身が此世界の政治的生存の適者であるかどうかと云ふことを試みられて居るのです。

扱て普通選挙のことを御話しするからには序に申上げて置かねば

ならぬことはこの問題は決して新しい問題ではないと云ふことです。歐洲の主な國々及米國が既に行つて居ることなのです、けれどもこれ等の國の政治が決して理想的ではありません、選挙には不正なことがあります、新聞と云ふ者を買収します、色々なプロパガンダをやります、そして政治の實際はどうかと云ふに社會に澤山の貧乏人が居ります、教育も完全には普及しませぬ、暴利をひさぼる商人も居ります、其不完全なことは制限選挙制を行つて居る國と政治の實際に於て大差はないのです、して見れば普通選挙制になつただけで



は何か未だ缺陷がある、その缺陷は即ち經濟上の自治がないからである、今迄の政治家に經濟と云ふことがほんとうに解つて居る人が居なかつた、それであるから政治が人民の幸福をほんとうに増進することが出来ないので、故に將來は一般人民が皆な此事に氣が付きまして政治上の自治と共に經濟上の自治を要求することになるのは明らかです、此二個の自治なくして人は眞の自由を得ることは出来ませぬ。

それで私は政治上の完全なる自治と云ふことを先きに御話し致し

ましてそれから經濟上の自治と云ふことに移りませう。

今迄は市町村自治と云ふ言葉がありました、然し自治とは名ばかりであつて實は中央政府に都合のよい政治をする道具に市町村を利用したのにすぎなかつたのです、一つの例を擧げて見ますれば中央政府が道だうなり、府縣なりに一つの仕事をさせる、府縣の俗吏共はこれを郡に移す、そうすると郡は更にそれを市町村におつ付ける、だから市町村は自分で自分の處の政治をやつて行くと云ふよりは國家の委任事務の方に追はれて居る有様です、奇體なことには役人と云

ふ先生は自分達は國民の爲めに仕事をして居るのであることを自覺  
しませぬ、また自分達の俸給は百姓や職工の懐ろから拂はれて居る  
ことを自覺しませぬから、市町村に命令的な態度で出てくることが  
多いのです、そうすると人民も馬鹿です、役人の云ふことを有難が  
る癖があつてへい／＼と、云ふことを聞くのです、それですから生  
産調査だの、教育の調査だの、皆な町村役場に停滯します、それか  
ら市町村役場は小學校の生徒だのを使つて何んでもよいか  
ら書類にしてまとめればよいと云ふて急きよごしらへの調査書が出来、

それが郡から縣、縣から中央政府へと渡つて行くのですから碌なこ  
とが出来ぬわけがありません、そして中央政府はどうかと云へば多  
數黨が後押して居る政府です、處が其多數黨と云ふのは何んである  
かと云へば餘計金を有つて居つて選舉運動費が他の政黨より多く出  
せるから議會に多數を占められた政黨なのです、餘計金があると云  
ふのは誰れかから金を寄附させたものに相違ない政黨に金を寄附す  
る様な金持は何れ自分の利益の爲めに政府と腐れ縁えんを結ばうと云ふ  
奸商なのさ、だから今迄の中央政府は即ち金權政府なので國民の

政府ではないのです、今日の何れの國家でも資本家の政府でない政府はありませぬ、この様な資本家の政治の道具に市町村自治が利用されるのだから國民こそ好いつらの皮です。

この事が一般人民の頭に明瞭になつて來ますと、己れ達の自治を返せと云ふ聲が起らずには居ませぬ、自治とは人民の幸福なる生活を保證する爲めに人民が自ら政治みづかをするのを意味することであり、處が今迄は幾何税金を納めたとか、何年一つ處に住んだとか色々な制限がありました、然し一體國家は税金を納めた者だけの國

家ではないのです、女の如きは家庭を整理し子女を生み教育養育して行くが如き重大な任務を國家の爲めに盡くして居ます、それなのに國家の政治に女の聲が入らぬと云ふことは不都合ではありませぬか、それから税と云ふものは納税の通告書によつて納めるのばかりが税ではありませぬ、鹽鮭を餘計に食ふ貧乏人の家族は即ち國家に對し鹽專賣の収入を多くしてやつて居るものです、それから煙草を多く喫む人はこれ亦た國家の煙草專賣の収入を多くして居る者であります、故に直接税のみで政治上の選舉權があるかないかを定める

ことは如何にも不條理と云はねばなりません、ですから男女共に普通選舉權があることになるに相違ありません、

教育の發達に伴つて男と女との智識上の差異と云ふものは全くなくなつて了ひます、デモクラシーと云ふのを民主的と譯する人や民本主義など、譯する人もありますが私はこれを具體的に解釋しまして老幼男女の別を問はずあらゆる意見が政治上に發表されて、大多數の意見の趨く方向に進んで行くことであると申し度いのです老人であつても進取的な人もあります、青年だからとて思想の老ひたる

人もあります、老人の保守的政治は未だ自然でありますが若い人の保守政治は百害あつて益がありません、であるから老若互に意見を戦はして勝つた人の多い方に行きより外よい方法はあります、普通選舉制の下に行つた政治の結果が悪くて國が亡びたとてそれは國民全體の責任ですけれども普通選舉制でなくつて國政を過まつたならそれは官僚なり軍閥なり金權なりの責任であります。

然し前に申上げました様に政治上の自治が出来上つたからとて經濟上の自治が完まったからぬ上は決して理想的な政治は出来上りませぬ、

經濟上の自治を行ふ第一歩は先づ私有財産の制限であります、云ひ換へれば市町村有のものを多くすることであり、例へば昔しはある國では「タインバイク」と云ふて道路を作つて通行する人々から道錢みちせんを徴收した時代がありました私共の郷里では今あるかどうか知りませぬが數年前迄は橋錢を徴收して居つた處がありました道路や橋を個人のものにして置くことは不便で不都合であるとは誰れが云ひ出すともなく皆んな考へ初めたのでせう、今日では道路や橋は共有ときまつてしまつて誰れ一人怪みませぬ、普通教育の場所であ

る學校も其校庭も公園も或は水道或は電話或は便所これ等を市町村有即ち市町村民の共有にして至極便利を感じて居るのです。

人々に通有性たる共有主義が土地、鑛山其他總ての資本、及び教育制度衛生制度（前に述べた醫者を市町村で御抱へにする制度）に迄及ばずに居りませうか、今日の資本主義の下にあつてさへ有効なる經營は被傭人たる技術家及勞働者の意見を出來得るだけ多く容れ利益の分配を多くするにあるのです、資本土地を市町村有乃至國有にしてそして經濟上のデモクラシーを行ふことが市町村及國家の富を

増す一番よい途否唯一の途であります、工場では労働者と技術者との組合を作つて兩者の相談によつて經營して行きます、鑛山では坑夫と技師とが相談して相扶けて生産して行きます、そつなつた時代には昔しはストライキやサボターチなど云ふことを人間がやつたそつだ變な時代もあつたものだと云ふであります、丁度今日、昔しは奴隸の賣買をしたそつだとは、大名とか將軍とか云ふ一種の人間が同じ人間に土下座をさせてゐばつて往來した時代があつたそつだと言ふて不思議がつて居る様なものであります。

また將來昔しは資本家とか、地主とか云ふ一種特別な人間が居つた、そののしたことを歴史の讀本で讀む時にそれ等の人々のしたことが同じ人間の皮をかぶつたものゝしたとか知らと疑はれる時代が來るであります、

話しは元とに戻りまして政治上の「デモクラシイ」を行ふ爲めに男女平等の普通選舉權の下に選び出された市町村會がありました市町村の行政事務、それから生活消費に關する事務を行ひます、他の一方に經濟上の「デモクラシイ」を行ふ爲めに農業者は農業組合、

工場には職工組合、教員は教員組合、巡査は巡査組合、吏員は吏員組合を作つて各職業別に代表者を出しまして、各々の職業上の相談を致します、例へば、生産をどの位増加させようとか、或は各自の生活費は他の職業の生活費と比べて多いとか少な過ぎるとか云ふことを相談します、そしてこれ等の職業組合の中から一人又は二人の代表者が出て市町村産業會を作ります、即ち市町村の機關に市町村會と産業會との二つがあるのです。

次に此二つの會議の代表者が出て府縣會と府縣産業會を作ること

ゝ致します、第三に府縣會と府縣産業會から選出された代表者が國會と國家の産業會を成します、もし市町村會と市町村産業會とを纏める爲めに市町村長が有つた方が便宜であるならば一般的に選出します、又た府縣知事があつた方がよいなら同様一般人民から選出します、だから丁度府縣知事は府縣の大統領の様なものになるわけです、

\*

\*

\*

\*

\*

それから裁判制度はどうなるだろうかと云へば申す迄もありません

ぬ、陪審制度であります、即ち市町村内の選出陪審官が取調べて判決を下すわけです、但し全然法律に無智な陪審官ばかり出ても小田原會議になつたり又は前例や法律に違つてもよくないので市町村は陪審官中の三分の一は法律専門家を以て組織することを定むるに違ひない。

警察の制度は丁度今日の消防組合の組織の様なものになるでせう、常識の發達した力の強よさうな者が選ばれて交代で巡査をやります、一體法律は人民が遵ふと云ふ氣があつて初めてよく行はれる

ので警察官杯が強制するからよく行はれると云者ではないのです。

前に申上げた様に教育制度が完成して誰れでも最高の教育を受けられる様になり又た、結婚の自由と生産制度のそれに生活の保證がある世の中になれば犯罪は殆んど無くなるであります。

何故なれば一體盜人は自分が持つて居ないからするのです、又た食へないから盜むのです、風俗に關する犯罪は適當に性慾が満たされぬから起るのです、根本の原因を取り去つて了へば警察も監獄も至つて暇であります。



## 第七節 國家の施設

最後に國家の政治は如何變るだらうかと云ふことを考へて見ます。

市町村の政治組織が變る様に國家の政治も模様を變へずには居りませぬ何故なれば市町村民が同時に國民なのですもの、で矢張り二院制度の合議體を有ちます、一は國會です、他の一は産業會議です、

\* \* \* \* \*

國會は半數は府縣會から選出され、他の半數は國民の直接選舉によつて選出されます、立法及行政の殆んど全部が國會の仕事で議會は一年を通して開會するのを原則とします、國家が各行政の部門に分れ議員が各部門の委員として行政事務に當り委員は書記其他の吏員の主任となるのです、昔しは立憲政體としての根本義として三權分立と云ふことを八釜しく申したこともありましたが、然し今日で三權の分立主義を嚴格に行つて居る國は殆んどありません、ある國は行政の主腦が立法にも司法にも有力な口をさします、ある國は立法

の機關が司法を兼ね且行政の大部分の仕事を致します、處が今度は  
こう分れるのです一は産業會議となり、他は國家となるのです、前  
者は經濟上のデモクラシイ實行の國家的機關で後者が政治上のデモ  
クラシイ實行の機關なのです。

國家の仕事として何んなことが新たに起こるだらうかと申します  
と。

第一に條約は必らず國會及産業會議の承認を経ることゝなりま  
す。

第二に遣外大使は國會及産業會議から選出委員が出て其の委員會  
で決定したものゝを兩會議で決定して委任狀を有たせて外國に派遣す  
ることゝなります、遣外大使又は公使は國民の代表的人物を選出す  
ることとなるのです、今迄は國家の仕組が王様や皇帝を主として居  
りましたから遣外使臣と云ふものが宮廷外交官でありました、だか  
ら風彩がよくつて儀禮に通達して居ると云ふことが最大條件であ  
りました、處が國民的自覺の下に派遣さるる使臣は國民的代表者であ  
ります、丁度英國が米國に憲法學者のブライニス氏を派遣しました様

に、又た米國が和蘭に大詩人のヴァンダイク氏を使はした様に非凡な人物を其國民の誇りとして出すでありませう、日本なら蘆花氏や雪嶺氏に大使を引受けて戴く方が、外國語が一寸出来るのに任せて餘計なおべんちやらを言つて國家の名譽を損ずる様な人間を出さないでもすみます、一體大人物のした過失は過失でもたちがよいですが、小人のシクジリは始末がつかませぬから遣外大公使などは廣く人材を國內に求めて選出することになるに相違ない。

第三に新聞は國報と稱して國家が遣外々交官から來た電報を悉く

其新聞に掲げ一番正確な一番敏速な記事の新聞となし、國民に無代で配付することとする其他、其新聞には國會又は産業會議の毎日の仕事を掲げて國民が直接政治に興味を持つ様にするのです。

私は今ある様な新聞をやめて國報だけ一つにして了ふ方がよいと云ふのはでありませぬ、けれども正直な一つの國民の新聞がほしいのです、今日の新聞は何れの國の新聞紙でも正直なものがありませぬ、其記事其社説が主に資本家階級又は資本的政治家階級のプロバガンダ(宣傳)の爲めに掲げられて居ります。そうでない少數のもの

で社會主義の宣傳につかはれて居る新聞紙のある國もあります、何れにしても公平でないこと、正直でないことは申すまでもありません、それから宣傳用の記事でないものでありましても我れ我れが事實を知つて居る記事が新聞に現はれました時、どれだけ出鱈目が多いかと云ふことから推して記事の大部分が大割引をしなければならぬことを知ります、今の新聞紙の大部分が資本家のプロパガンダであることは其新聞社に印刷職工のストライキの起こつた時の新聞社の態度が他の工場主の労働者に對する態度と少しも違ひがない、

否、より多く酷しくあつたと云ふことから察することが出来るでせう。

それから私が國報を作つて世界の事實を事實として國民に知らせる必要があると主張します理由の今一つは今の官報なり新聞なりは役人が自分達の都合の悪い外國電報はこれを掲載しないで國民を盲目にし、自分達に都合の良い通信だと十中八、九、虚報であると言じても誠とのやうに掲げます、今日の様に國民の智識が増進し民主的傾向の増して來た時には事の善惡は國民の判斷に任すべきでありま

すから事實は事實として報道すべきであります、此事實を事實として報道すべき機關として國民の新聞である國報の出来ることはこれから先の國民の要求となるであります。

第四に、大學の一科に軍學の科を設けこれ迄の陸海軍の學校は全廢される様になるでせう、一方に國民は男女、皆な國家の防衛に當る爲め又た國際組合（何にも聯盟と六づかしく譯する必要はありません）の規約で弱國を保護する爲めに必要な訓練をして置かねばなりませんから、國民全體が交代

で二十歳から三十九歳迄のものは何人に限らず二週間又は三週間軍事の練習をやるのです、國民全體が二十年間毎年三週間づゝ訓練をすることは即ち六十週間ですから皆んなが一年志願兵以上の訓練を永続的に行ふことになるのですから國民の體力維持の上から云ふても結構なこと、又た平常事務室内でのみ働いて居るものには誠に結構な保養であります。

それから一朝有事の場合に備へる爲めに國民は各自の得意とする技挿を届出て置くのです例へば隣の主人公は算盤が得意だ、こゝの

娘さんは飛行機に乗れる御向ひの息子さんは理科大学の先生で徴が専門であるとする、それを市町村役場に届出して置くとする、いざ戦争となると隣の且那<sup>だん</sup>さんは主計になる、この娘さんは飛行隊に入る、御向ひの息子さんは兵糧の試験をやると云ふ様に専門に應じて採用するから有効にむだがなく勞力を使用して行けます、それでは眞の意味の全國動員である、動員と云ふことは今迄は兵隊さんばかりに用ひられた言葉であつたのですが、將來は年齢や、男女の別なく動員を行ふことになり、かくて國防の實が遺憾なく擧

げられます。

第五に國民大動運會を年四季に行ひます、春秋には陸上競走、競馬等の競技、冬には雪中、氷上の競技、例へばスキーやスケートをやる、夏は游泳其他の水上競技をやると云ふ風に運動を盛んにする、これはローマ字を採用すれば前述べました様に一週五日學校に行けば濟むから土曜日にはうんと遊び、日曜日は静思の日とするかくしてうんと遊ぶ日、うんと學ぶ日、そしてよく考へる日を作つたなら國民の精力は驚々べき進歩をなませう。

運動會と云へば今日迄は遊び事として學校の生徒ばかりのする事としてあつたのでしたが運動會は國家の事業として最も必要な機關でありますから一週中の第六日目即ち土曜日を運動日として國家があらゆる運動獎勵の設備をする、年何回かの國民大運動會には國家的賞品を出す、此賞品は後に述ぶる物品交換の價值切符を以てするのです、此運動會はなるべく全體に普及する様に大音樂隊を準備して大々的に舞踏會を催し男女の楽しい交際をも兼ねることになるであります。

第六に國家は各府縣に藝術館を建て、自由に藝術家にこれを使用せしめる、藝術は競争し得べき性質のものでありませんから各々藝術家か自分の作品、樂譜、舞踏などをして見せることだけとする、今日迄は國家が競技會を行ふつもりで美術展覽會を行つて居つたのでしたが、その大間違ひであることは云はずして明らかです。

第七に子供共進會を開催する、そして子供の體格感覺智慧等の試験を行つて人種改良の爲めに貢献する、満三才迄は必らず此共進會に子供を出さねばならぬこととするから保護者は子供の衛生、子供

の教育に平素一層注意をする様になります又た試験する醫師心理學者から共進會の時に養育上の忠告を受けるから、保護者もよい學問をすることになる、將來の國家に於きましては物質的には皆んな同等なのですから營養不良の子供など、云ふものはあり様がないので、人間は今日でも空氣と日光だけは自由に受けて居ります食物も嘗ては自由に得て居つたのでありましたが、何時の頃からか食物が自由でなくなりました、それでこれからは人類が共同の努力で衣食住を自由に得らるべき國家の仕組に變へるに違ひないのです。

\* \* \* \* \*  
それから産業會議のなすべき仕事で其時代の經濟組織に適應して起るべきことは第一に國立爲替銀行の設立でありますそして銀行はこれが唯一となることであります、國家が對立して國家間に貿易が起る以上これが貸借尻の決濟に地金銀の移動があるのは當然のことであります、甲の國が乙の國へ二億圓の品物を輸出し乙の國から甲の國へ一億五千萬圓の品物を輸出すれば、甲の國から乙の國へ五千萬圓を地金銀で返さねばなりません、この爲めに國家に直接附屬し



た爲替銀行が要ります、處が國內には銀行は要らぬことになる、何故かと云へば生産と消費とがちやんと産業會議で決定した様にうまくつり合を立てゝ行はれる、そして大企業は悉く國有又は市町村有であるのだから特に擴張を必要とする企業は産業會又は産業組合の定むる處に従つて國家又は公共團體が經費を定めて物質を供給するから今日の様に銀行が資本を供給する必要がなくなる。

醫者が市町村有、學費は國費、交通機關は國有なるが故に何時でも無料で乗れることは今日道路や橋を使用するのと同様になるから

旅費や學費を銀行を通じて送金する必要がない

第二に貨幣が無くなつてねだんきつぷ値段切符と云ふものを國家が發行する。

これは産業會議で其年の農工業の産額幾何、その幾分が外國に輸出され、何の位の品物が外國から輸入されるれば其年の國民の需要が大體満たされるかと云ふことを決定しますから其見込で一ヶ年間通用の値段切符を發行して國民に配付する、國民は其れで生活に必要な物品及其餘りで必要以外の要用に當てますそうすれば國家は一つの資本家、國民はその一部分となりますだけで國民が個人個人で、

資本家になれぬ仕組になるのです、値段切符は國家が貧乏である時は國民の必要を満たすに足りるだけでありませうが、國民の勤勞の結果國家の收入に餘裕が生じますれば値段切符は生活必要費以上に分配される、其餘りで或る人は樂器を或る人はすきな着物を、ある人は繪畫を買ふと云ふことになる、かくして各自が異なつたる趣味の慾望を満足し得るでありませう、丁度今の株式會社が利益の配當をしながら其事業の發展と積立金の積蓄を忘れない様に、今後の國家公共團體は國民の需要と標準生活を満足させつゝ、國家産業の發達

を忘れぬ様に經營して行くのであります、こゝ等が經濟上のデモクラシイの妙味ある處であります。

第三に一の國家は國際組合の毎年の會議で各國の需要すべき品目と分量とを提供し有無相通づる様に致します、今でこそ國際組合の勞働會議で資本家勞働者が其利益を主張し合つて争つて居りますが、これも各國が眞の經濟上のデモクラシイを建て、國民の聲が政治及經濟上に表はれて來る時代が來た時にはそんな會議は不必要となりまして國際産業會議と云ふものに變形致します、そして人類の

四海兄弟主義が具體化するでありませう、もつとやさしく云へば一國の産業の健全なる發達はとりも直さず他國の國民の利益と云ふことになりませうから國家同志が他國の必要を満たし急を助けると云ふ時代にならではやみませぬ、私共、人と人との間が一家の間の關係の様に睦み合ひ他人の利益を先きに考へて、或る場合には自分を犠牲に供すると云ふ様になつたなら如何程楽しいことでありませう、此の他人に仕へると云ふ精神が人類間に行き渉る時代が來ずして止むでありませうか。

\* \* \* \* \*

只今迄に私は身體上の自由から公共團體及國家の政治經濟組織の變化に迄説き及びました、これで具體的又は物質的の仕組みに差支へはない様に思はれます、人類の要求は結局は私の述べました處まで行かないでは止みませぬ、唯私は是非皆さんの御一考を願ひもし御同感であるならば御協力を願はねばならないことは人間は物質のみでないから唯、物質的・具體的の設備が完成したとて満足を得らるゝものでないことであります。

## 第八節 宗 教

それならどうしたなら此世が天國の様に化するであらうか、人間はどうしたなら眞の満足が得られるだろうかと申しますと形に見えて居るもの以外のものを信ずることでもあります。

私は將來に於て必らず前述せる各種の組織に變つて來ると信ずるものでありますが、此各種の變化は、とりも直さず現在の組織を打ちこはすことから出來上るものでありますから、打ちこはした結果

が矢張り打ちこはした時の氣持ちで争闘を事として在つては世に幸福なる平和な時代は來ませぬ、他人を支配する、俗に云へば牛耳る精神から立場を代へて他人の爲めに仕へると云ふ精神に變らぬ以上は眞の幸福は來ませぬ、例之は大きな焼き肉がテーブルの上にあつて一家がこれを食べる時におとつさんなりおつかさんなりが家族の一人／＼に、「足りない方はありませんか足りない方には上げませう」と云ふて分配を公平にする時に其内の一人が「おれが一人で皆んな食つて了ひ度い」と云ひ出したとします、どうして此家庭

が幸福でせうか、社會もこれと同じことで分配の公平と云ふことは常に他人の爲めに仕へると云ふ精神が存在することを要件と致しませぬば幸福でありませぬ、一體世に奉仕することや、無私的愛を以て人に仕へると云ふことが宗教心無くして出來得ることでありませうか、他人に少しばかりの親切をしてさへ其人が有難いと云はないと腹が立つのが人情なのです、これは宗教心がなくつて人に仕へるからです、宗教心があつて人や社會に奉仕するならば假令禮の一言ことば云はれないからとて何で腹が立ちませう、神様の爲め、佛様の爲め

にしたことだと云ふ信念があれば、神佛が喜んで下さりさへすれば満足するのであります、此目に見えぬ或るものゝ心に通ふ精神があつて始めて人は喜んで社會の爲めに働きます、否働らぬことを罪悪であると思ふでありませう。

それから世がそう云ふ風に變つた曉には正義の爲めに聲を擧ぐべき強よい力が要ります、世を恐れず人を恐れずに正々堂々の聲を擧げるのに宗教の力なくして爲し得るわけがありません、自分の云ふことは神が命じ給ふた處であると信じて立つ時に如何ばかり心強よ

いこととせう

又た正義の在る處に必らず神は勝利を與へ給ふと信じます時どの位勵まざるゝでせう。

この信念なくして勇氣と慰安とが得られませうか。

私が宗教の必要を説きます、譯わけは人は物質主義には容易たやすくなりませう、物質の改善制度組織の改造にはすぐ氣が付きます、けれども物事は凡て目に見える様なものではありません、表面的の改造だけで人生の幸福が來ると思ふのは大變な間違ひであります、物質主義の

人々が集つて社會の改造をすれば或る場合には改造前よりも大なる禍を招くことがあります。

此點は改造に希望を有つて居る現代人の特に意を注がねばならないことであると信じます。

## 第九節 改造に對する反對論と障害

私は只今迄に如何に國家の政治組織が變るであらうかと云ふことを述べました、そして其國家内には一人も働らぬ人はなくなるのです、其老人と子供と學生とが働かないでも生活を保證されるのです、或人は申す他は働くこと云ふことが條件で生活を保證されるのです、或人は申します、生活を保證されるれば労働の能率が上らなくなるとけれ共、今日の資本組織の下に於ての話です私が前申上げました様に國

家組織が變つて來ます時、何で働くのをイヤがる人がありませうか、一體人は働かずに居るのが幸ではないのです、もし相當教育を與へられた人間に「食ふに困らぬだけにして上げますからあなたは何にもしてはいけませぬ、じつとして御在でなさい」と云ふた時其人は大に嬉しがるでせうか、人は働かずに居られはしませぬ、今の人が「働らかずに飯が食へたらおれは何にもしないで遊んで居る」と云ふことをよく云ひますが、それは今日の資本組織の下では労働者は何時迄働いても労働者で了るからです、も一つは資本家は金が

充分にあつて労働者は貧乏ときまつて居るからです、誰れだつて苦しむのはいやですもの。處が一朝社會の經濟組織が變つて働く者即ち資本家、資本家則ち労働者と云ふことになつた時には皆んな平等に働きますから今日の世にある不合理な現象がなくなり、即ち或る種の階級の人間は一日に一時間か二時間、盲目印を押せは何萬圓と云ふ収入がある、或る種の人間は自分のすきな鳥や獸を銃獵して歩いて親から譲られた巨萬の富から出る利子で樂に食ひながら生産的な働きをした國家の役人と同じに官等がついてそして

何年か勤めれば胸に勳章がぶら下ると云ふ珍現象があるのに他方働いても貧乏におつ付かれる、八時間も十時間も働いても一家を養つて行けない、と云ふ様なことや又は相當な高等教育を受けて會社銀行には入り十年経つても夜業して働いて猶ほ且家族を養つて行けない、よし漸く養つて行けても自分の受けて來ただけの教育を子供に授けられない、朝は早く出で夜は遅く歸るから子供や妻君とも碌々話しも出来ない、と云ふ様な悲劇はなくなり、物質的には極めて平等な生活が營まれる様になりますれば人は一日にせいぜい六



時間も働けば充分であります、六時間働いて、他は家族と楽しみ、趣味を養ひ娯樂を求め、運動をし、讀書をする、そして政治に關與する餘裕が充分生じて來ます、私の申します政治上のデモクラシイと經濟上のデモクラシイが同時に來なければならぬと云ふのは此點から考へましても御解りになりませう、經濟上のデモクラシイで富の平等と勞働時間の短縮、生産と消費との調和があつて初めてこれ等の生産業に従事して居る人が同時に政治に關與出來ます、今日の資本組織の下では一般の人が政治に興味と研究とを有する餘裕が

持てないではありませんが、朝早く家を出で夜遅く歸つて綿の如くに疲れてしまつてはどうして政治を研究し、適當な代表者を選び出す餘裕の時間がありますか、處が度々繰返して申上げました様に經濟上のデモクラシイが實現さへすれば皆んなが自分の市町村、自分の國の政治に與かる時間と與からうとする趣味を有つて來ます。

\*

\*

\*

\*

\*

或人は私に申します「あなたの話す様な理想的な國家が出來た例がないではないか、」と私は答へます未だ歴史上實例はないでせう、

けれども前に無い、今も無いからそう云ふ理想的な組織になつて來ない、と斷言は出來ませぬ、それなら私から反問します一體今日の人間●有つて居る理想が政治上に現はれて來た曉にはドウ云ふ風に國家組織に影響があるでせうかと、恐らくどう考へて見ても私の述べました方向の外には出でますまい。

\* \* \* \* \*

或人は私に申します、「その様に國家が變つて行くことは自分も理想としては大に賛成する、けれどもそうするには血を流すことがあ

るであらう」と私は答へます「そう云ふことになるかも知れませぬ、それは私の論ずる範圍外であります、私は只正直に世の中はこう云ふ風に變るに違ひないと信ずる處を述べたのでかうしようではないかとか、或はかくせねばならないと云ふのではありませぬ。

けれども世の人心が悉く一齊に變化して、前申しました様な政治上●デモクラシイと經濟上のデモクラシイとを同時に必要であると認められた時は既に國家の組織の變る時です、國家は國民の國家であります、假令ある人はこれがある特權階級の國家であるとコヂ付けて

論じて見た處で國民大多數の時代思潮を無視して政治が出来るもの  
ですか、今の政治家が大なる野心を以て政治に従事しても成功しな  
いわけは思想又は思潮と云ふことが了解出来ないからです。

國家の組織は國民の思潮の趨く通りに變ります、いくら少數のオ  
ダテ屋がヤンヤと囃し立てたとて國民大多數の目が醒めない間は國  
家は變りはしませぬ。

\* \* \* \* \*  
それから何處の國でも官僚なり、軍閥なり又は資本閥なりが勝手

に政治を手に收めた時には教育の上に飛んでもない間違つたプロ  
バガンダをやつて小學校の第一年から大學を出る迄にどうしても理  
窟に合はないとを合つて居る様に思はせて了います、これが實に國  
民の爲めに恐ろしいことです、獨逸が「獨逸が萬國に冠たる」こと  
を國民教育の中にプロバガンダをやりまして、獨逸國民が最優秀な  
國民で世界を平服する任務がある様に小さな子供の時から頭に入れ  
た、それが如何に獨逸の不幸を招き失敗に了つたかを證據立てゝ居  
るではありませんか、カイザーの權力は神より出でたる權力だとし

て兵を訓練し子供だましの金ピカ大禮服や勳章やソツクリ反つた髭  
で軍隊を指揮して居つたのが御膝下のキール軍港から革命の起る原  
因をなしたのです、勿論私は獨逸國民の爲めに此革命を祝します、  
けれどももし國民が軍閥や官僚閥にだまされずに濟んだなら如何に  
もつと幸であつたらうと思ひまして同國民の爲めに氣の毒に思ふの  
です。

官僚や資本閥はなるべく國民を人間として覺醒しない様に自分達  
の機械として都合のよい人となる様に教育の方針を立てるのです、

大學の分科を出来るだけ細かくして、卒業した人間は都合のよい道  
具にして餘事を考へる餘裕でない様にする、それから何時でも自分  
達の野心を満足させるのに都合のよい時は自分達の利權に都合がよ  
いとか、自分達の榮達に都合がよいとか云ふことを「國家の爲め」  
と云ふ言葉でカモフラージュ（うまく覆ひ隠すこと）して他國と戦争  
をなし、大切な人間を殺すことを何んとも思つて居ませぬこれは丁  
度工場主が「國益の爲め」と云ふ名義で労働者を虐待し、何萬人を  
結核患者とし、片輪にしながら自分は巨萬の富を作り、そして國益

なる理由の下に國家から爵位勳章を貰つて居るのと一寸も違ひはないのです。

官僚資本閥の手合がもう一つプロバガンダをやることは實利主義であります、ある人は功利主義とも申します、即ち假令ひよい事であると知つて居ても自分には損だとなれば手を出さぬのです、知つて知らん顔をするのです、現代のある國の教育の弊は此處にあります、だから官界でも實業界でも其中に働いて居る多くの人は相當の教育があつてこの事がよい、この事は悪いこう進まねばならぬ、

こつちに行つては悪い、と云ふ様なことがよく解つて居つても誰れも云ひ出さぬ、云つても用ひられないこともないのでありますが下手に改革などを稱へれば頸になる、まだまつて居ようと云ふ風に人間が實利的になる、この様な實利的に人間をして置かないと官僚資本家は都合が悪いのですもの彼等が功利主義のプロバガンダに努めるのも無理はありません。

けれども國民の爲め即ち國家の爲めには學問の分科主義と功利主義の普及が最も恐ろしい、國家の政治は行くべき方向に必らず行

くことは私の確信して居る處であります。此二つの主義が少くとも速度を弱めるものであることを一言して置きます。

## 第十節 國際關係

今迄私は國家の政治の仕組の變化に付て述べましたが、最後に國際關係のことを考へて見たいと思ひます、ある讀者からは「お前の云ふことは國家國家と云ふて狭いことを云ふ、何故世界的に論じないか」と云ふ御小言を頂戴するであります。

然し私は國境は近き將來にも無くならないと思ふのです、勿論國境が無くなつて、世界の人間が兄弟の様に睦<sup>むつ</sup>み合ふ日の一日も早く來

ることを祈つて止ませぬ。

否、きつと其處迄行くのです、けれどもそうなるには先づ國家が全く國民のものにならねば駄目です、國家の政治が全然國民の手に入つた上に、宗教的の大復活が來て世界の人は初めて謙遜なる心を以て互に手に手を握り合ひます、かくて初めて四海兄弟主義が實現されます、そんなつた曉にはかへつて國境のあつた方が都合がよいかも知れませぬ、或は世界人類に都合のよい様に國境が變るであらませう。

第一に何故に國家が國民のものにならねば國際的親善が出來ぬかと云ふことを御話して見ますと、宇宙の自然の萬物はうまく調和がとれて居る筈なのであります、甲と云ふ國には羊毛を産する、乙と云ふ國からは絹が出る、丙と云ふ國からは棉花が産すると云ふ場合に甲國は乙丙の二國に羊毛を出し乙國から絹、丙國から棉花を輸入します、丙國は棉を甲乙兩國に出す、甲國から羊毛を乙國から絹を輸入します、かくして三國の有無を通じます、この原則が總ての產物に適用されるのです、今日でもまだ商戰と云ふ言葉もてあそを弄ぶ人があり

ますけれども一體商賣は相助け合ふから成り立つので喧嘩や競争をすれば商賣はつぶれてしまいます、それでほんとうの國家間の商賣即ち國際間の有無相通ずる此方法は、私が前述べました經濟的デモクラシーの仕組の國家同士の間にてこそ行はれますが、今日の資本組織の下では完全に行はれませぬ、何故かと云へば資本家はすぐ商戦を初めるからです、世の中に資本家と云ふものゝ存在を許るしこれに自由な競争を許して置いて、どうして其資本家なる人間が世界人類の幸福を先きに思ひ自分の利益を後に思ひませうか、資

本家なる人間は自分の利益の爲めには人の生命をさへ何とも思つて居はしませぬ、年に何十萬何百萬人の工女、職工は片輪となり結核患者となつて殺されて居るではありませんか、幾多の教育ある月給取は精神的に殺されて居るではありませんか、彼等は自分の利益の前には愛國など云ふ精神はありはしませぬ、自家の生産物は自分の國で大に不足であつても外國で高く賣れるとなればどしどし海外に輸出して自分の腹をこやします、自國の勞銀が高かければどしどし外國から移民を入れます、かく非愛國的の行爲で得ました巨億の



富の何百分の一を罪亡ぼしに自國の學校なり、病院に寄附すれば公  
共事業に貢献したと云ふ理由の下に資本家政府（即ち自分達の政  
府）から勳章を貰つて野蠻人が貝殻をぶら下げると同じ考からぶ  
ら下げて喜こんで居るのです。華族に列せられて矢張り野蠻人の酋  
長然たる駄鳥の羽をつけたる大禮服を着てそれで立派に見えると思  
つて居る子供らしさ加減と來ては御話しになりませぬ、こんな連  
中に世界人類の共存上に必要な貴き商賣を委されてたまるものです  
か、經濟上のデモクラシイと、政治上のデモクラシイがほんとうに

成り上り商賣は産業組合と産業會議との手に入り一國民が他國民と  
共存と好意とを以て接する時に始めて世界の平和と人類の幸福が來  
るでありませう。

そう云ふ様に變つて來た時に國際組合の仲間である國が輸出する  
産物が少ない爲めに他國の品物が買へない、けれども他國から機械  
類を輸入すれば其國のある種類の産業が興こる見込みがあるとした  
場合には資本に豊富な國々から國際組合の經濟委員に委託してそれ  
から其國に資本を貸すこととし、漸次其國の生産品の輸出で金を返

して行くと云ふ様に人類相救ひ相扶けると云ふ實を擧げることが出來ます、今日でも貧乏國に借款しやくかんと云ふものを四五の資本國から致しますけれども名は國家的でも實は資本家だけの算盤球に合ふ時に初めて成り立つので貧乏國を救ふのではなくつて自分達の投資に利益だからするのです、丁度金持の道樂息子に高利貸が金を貸す様なもので利息が高いばかりでない、手数料だオドリだと云つて借り手の手取りは僅かになつた上に財産は何時の間にか高利貸の手に書き入れられて居る様なもので、今日の借款團と云ふものは名義は何國、

何國となつて居ても實は其國々の資本家が他國から金をとつて其上に利權を押へやうと云ふ野望から來るのですから、きつと、額面幾何、手取幾何、爲替相場は幾何、利息は幾何ときめて利源の多い、しかも財政不整理な國に金を貸して居ます、だからかゝる資本家を出した國民こそよい迷惑です、借り手の國民から大にうられます、四國借款だの、五國借款だのと名義は四國や五國になつて居ても實は四國なり五國なりの資本家だけの團體が彼れ等の利益の爲めに他國の國民の利權を開發するにすぎないので、だから、國民同意が

共存の爲めに相扶け合ふのではないのです、此他國の資本主義の跋扈が國家間の誤解を招き平和を亂さずには濟みませうか、これが私  
が國家が國民のものとならねばほんとうの四海兄弟主義が成り立た  
ないと申し上げました理由であります。

第二に何故に宗教的大復活が必要であるかと申します、只今迄  
申し上げました様に國家が國民のものとなつただけでは未だ四海兄弟  
主義の確立には不完全な點がある、それは何故かと申しますれば、  
前に宗教を論じました時に申し上げました通り人間には牛耳る精神が

ある、此牛耳る精神が人間の心の底に潜<sup>ひそ</sup>んで居るから専制主義や資  
本主義が今日迄發達して來たのです、人種的偏見も此牛耳る精神か  
らの産物です、日本人は支那人や朝鮮人を始め他の東洋人に對して  
彼等より優れた國民であると自惚<sup>うぬほ</sup>れて彼れ等に對し牛耳る精神はあ  
りませぬか、又た北米合衆國やオーストリアで黄色人種に對して  
牛耳る精神があるではありませんか、此牛耳る精神又は命令する態  
度から變つて他國民の爲めに好意を有つ又は仕へると云ふ精神にな  
ることは宗教的大自覺が起つて皆んなが一の父なる神様の下に兄弟

せあると云ふ信仰の起らぬ以上は達し得られませぬ。

### 第十一節　むすび

いくら書いても御話しても際限がありません、又た見方によつては同じことの繰返しにすぎないとも云へます、で私はこゝらでペンを止めようと思ひます。

紐育に居りまして日本から歐洲に渡る方々、又た歐洲から日本に歸りの途にある人々、それから米國を訪はれる方々に澤山御目にかゝります、そして故國の改造に関する種々な御意見を聞くことが出

來ますのは何より愉快であります、或る人はローマ字論をなさいませ、或る人は英語採用論をなさいませ、或る藝術家は文學を世界に紹介することが平和に行く最捷路もつともはやみちであると云はれます、或る人は日本舞踏の世界に冠たる所以を御話しになりますそして從來の古い型から出なければならぬと論ぜられます、新派の役者は舊派の傳統的なのを攻撃します、役人は勅任官以上の人間は解わからず屋ばかりでだめだと云ひます、會社銀行員は重役の頭が古いから早く取つて代らねばならぬと云ひます、婦人の方々は奴隸的待遇からの解放と云

ふ様なことを話されます。或る教育家は忠孝主義や良妻賢母主義の愚にもつかぬことを論じ、或は日本に於ける支那學生の待遇改善を論せられました。

曰く何、曰く何、日本のあらゆる社會に不平と不安があつて、進むべき改造の路を開かうとして居る聲であります、丁度ワグナーやベトウベンベートーヴェンの曲を耳にして居る様な感があります、追分やサノサ節しか知らぬ連中にはこれ等の大曲はたゞ騒々しい雑音としか解されませぬ、けれども耳のある人達には種々雑多の樂器の奏する音樂が

一つの大きな波を打つて行くべき結末迄進んで居りますのに氣が付きます、改造の聲も一人一人から聞けば雜然として居ります、けれどもこれを綜合して默想致しますれば日本も地理的には歐米と距つては居りますが、世界人類の奏しつゝある大進行曲の一部に入つて居ることを知りますのは何たる愉快なことでありませう。

(終り)

ひとり言

「知る者言はず、言ふ者知らず、と云ふから、つまり自分によく解らないからごたくと書いたのだらう。」

大正十年七月六日印刷  
大正十年七月十日發行

不許複製

著者

加納久朗

發行者

東京市京橋區尾張町二丁目十五番地  
福永文之助

印刷者

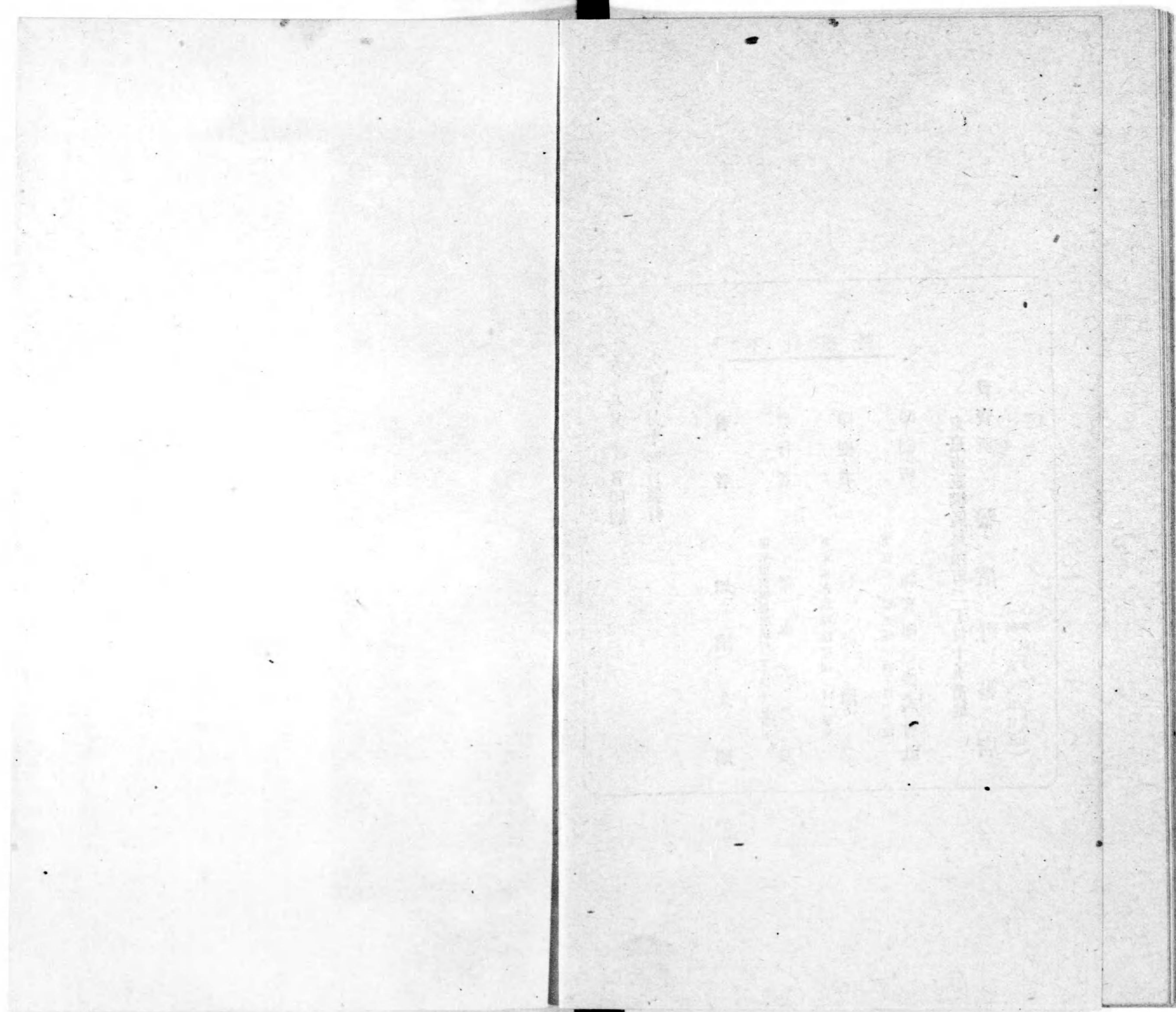
東京市京橋區銀座四丁目一番地  
村岡徹三

印刷所

東京市京橋區銀座四丁目一番地  
福音印刷株式會社

發賣所 警 醒 社 書 店  
東京市京橋區尾張町二丁目十五番地

(電話 東京五五三  
銀座一五八七)





頁	行	正	誤
30	七一	離婚が多く	結婚が多く
53	七一	云ふもの	云者
53	三	結婚の自由と産兒制 限度	結婚の自由と生産制 度の
55	三	國會が	國家が
56	三	國會となるのです	國家となるのです
80	五	説きまます譯は、	説きまます、譯は
82	五	能率が上らなく、それ と、けれ共、それ 餘裕が	能率が上らなく、なる とけれ共
93	二	餘裕が	餘裕で
95	三	ま、だまつて	まだまつて
105	八	國民同志	國民同意
106	五	申しますと、	申します、

50  
51

終

